

第5回多摩川流域歴史セミナー

『関戸合戦と関戸の地域性』

～午前の部：現地見学ツアー～

－開催報告－



『多摩川50景』 大栗川合流点

平成29年6月10日（土）
多摩川流域懇談会

第 5 回多摩川流域歴史セミナー

『関戸合戦と関戸の地域性』

開催報告（午前の部）

1 概要

- 日 時：2017年6月10日（土）10:00～12:00（晴れ）
- 場 所：聖蹟桜ヶ丘駅～熊野神社（多摩市）
- 主 催：多摩川流域懇談会
- 協 力：公益財団法人多摩市文化振興財団（パルテノン多摩）・多摩市教育委員会
- 参加者：計 89 名（一般参加者 56 名・スタッフ 33 名）

2 プログラム

- プログラムの概要は表 1 に示す通りです。

表 1 「第 5 回多摩川流域歴史セミナー」プログラム

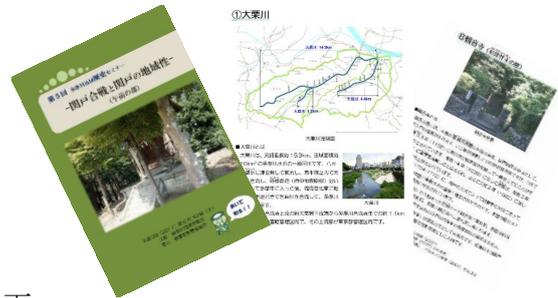
項目	説明者	場所
開会挨拶	神谷 博 氏（多摩川流域懇談会運営委員長）	聖蹟桜ヶ丘駅前
大栗川に関する説明	飯島 氏（東京都建設局） 齋藤 氏（同上）	大栗川
見どころ説明	1 班：山崎 氏（多摩市教育委員会 学芸員） 2 班：石塚 氏（同上） 3 班：諸富 氏（同上）	各見学スポット
閉会挨拶	竹本 副所長（京浜河川事務所）	熊野神社

3 現地見学

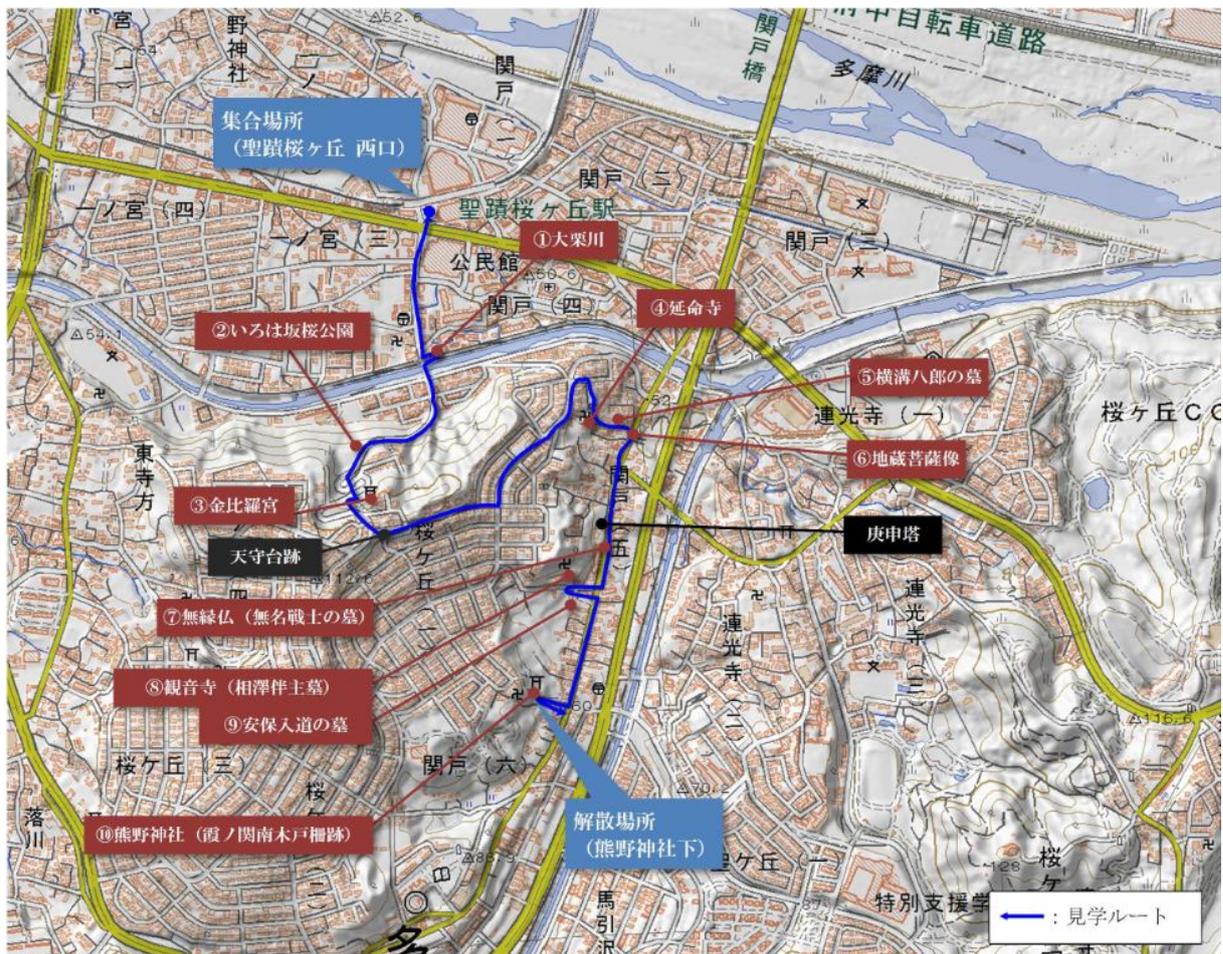
当日は、3班に分かれて聖蹟桜ヶ丘駅をスタートし、解説を聞きながら大栗川、いろは坂桜公園、金比羅宮、横溝八郎の墓、関戸古戦場跡、観音寺などの見学スポットを巡り、関戸の歴史を感じながら、ゴールの熊野神社まで歩きました。

見学スポットでは、多摩市教育委員会の学芸員さんからの分かりやすい解説があり、参加者からもさまざまな質問が挙がっていました。

解説の中には、聖蹟桜ヶ丘が舞台といわれている映画「耳をすませば」にまつわる話などもあり、充実した現地見学ツアーとなりました。



見どころが掲載されたしおり



見学ルート

3.1 集合

- 10時に聖蹟桜ヶ丘駅に集合しました。
- まずはじめに、京浜河川事務所の高橋課長より現地見学にあたっての注意事項について説明がありました。



集合の様子



注意事項の説明

3.2 開会挨拶

神谷 博氏（多摩川流域懇談会運営委員長）



開会挨拶

- 多摩川流域歴史セミナーの主催者である「流域懇談会」についての説明がありました。
- 当日のプログラムについての説明も行われました。

3.3 大栗川に関する説明

飯島氏・齋藤氏（東京都建設局）

東京都建設局の飯島さん・齋藤さんより大栗川についての解説をしていただきました。

大栗川は、多摩市・八王子市を流れる全長約 15.3km の多摩川水系の一級河川です。当日は大栗川を目の前に、参加者が防災等について強い関心を寄せる場面が見られました。

また、大栗川に関連し、出発前には京浜河川事務所の方より浸水想定区域図に関する説明が事前に行われました。

【大栗川の整備に関して】

- 大栗川は多摩ニュータウンの開発と併せて改修が行われました。当時は治水機能を最優先とし整備を進めたため、護岸はコンクリート張りのブロックとなり、川側に入る施設もないため、水辺に近づくことは困難な状況でした。
- 現在はブロック護岸の老朽化等が課題となっています。これを踏まえ、河川環境を緑豊かな河川空間に再生することを目的に、緑化及び親水整備工事を実施しています。
- 緑化工事にあわせ、老朽化した護岸を再整備して水辺に近づけるような工夫を行っています。
- 大栗川の呼び方については決まっておらず、河川名を書いた看板では「おおぐり川」と表記されていますが、地元では「おおくり川」と呼んでいる人もいます。

【浸水想定区域図の説明】

- 国土交通省が指定する河川について、氾濫した場合に浸水が想定される区域および水深等を記載した「洪水浸水想定区域図」を作成、公表しています。
- 多摩川、大栗川が想定しうる最大規模の降雨によって氾濫した場合、関戸周辺では多摩川沿いの氾濫平野はほとんど浸水し、聖蹟桜ヶ丘駅付近では、3～5mもの浸水が生じる予測となっています。



解説していただいた飯島さんと齋藤さん



大栗川

3.4 見どころの説明



- 1 班・山崎氏 (多摩市教育委員会 学芸員)
- 2 班・石塚氏 (同上)
- 3 班・諸富氏 (同上)

移動の途中には、しおりに掲載されているものを中心として、イラストや写真等をパネル化したものを用いながら、以下のような地形や自然環境、歴史に関する説明が多摩市教育委員会の学芸員さんからありました。

・ いろは坂桜公園



ここでは「聖蹟桜ヶ丘」という地名の由来の説明等がありました。もともとは、関戸駅と呼ばれていたものが、今では聖蹟桜ヶ丘駅となっています。これは、明治天皇がこの地に 4 回も御幸されたこと、周辺が桜の名所であったことから、「聖蹟」「桜ヶ丘」と名づけられたそうです。

・ 金比羅宮



江戸名所図絵に描かれた関戸の名所のひとつであり、昔は物見松という有名な松があったそうですが、現在はなくなっています。

境内の中には、映画「耳をすませば」にまつわる恋みくじが設置されており、おみくじをひく参加者も見られました。

・ 天守台跡（関戸城跡）



昔は金比羅宮付近を天守台と呼んでいたそうです。多摩川に面し、武蔵野台地を一望できることから、鎌倉幕府以来の物見台的城塞として機能していたようです。一帯は関戸城跡とされていますが、今は地形も変わっており、その形跡はほぼ残っていませんでした。

・ 延命寺



延命寺は、僧侶の隠居寺として建てられたもののため、関戸の歴史と直接的なつながりはありませんが、横溝八郎の供養を毎年行っており、関戸合戦の歴史に触れることができます。境内には六地藏や釈迦如来像がありました。

・ 横溝八郎の墓



北条泰家の家来で、関戸合戦で討死したとされる横溝八郎の墓が延命寺近くにあります。全体は塚になっており、その頂上部に位牌の入った祠が祀られています。参加者の方々は塚にのぼり、位牌をじっくり見ていました。

- 地蔵菩薩像



地蔵菩薩像は、延命寺・横溝八郎の墓が裏手にあることから、「下の地蔵」などと呼ばれています。あたり一帯が関戸古戦場跡であったとされ、関戸合戦の歴史を感じることができました。

- 無縁仏（無名戦士の墓）



地蔵菩薩像から観音寺方面へまっすぐ歩いていくと無縁仏が見えてきます。ここは、関戸合戦の戦死者たちの墓として伝えられているそうです。

- 観音寺（相澤伴主の墓）



六観音像



相澤伴主の墓

観音寺は、関戸の歴史編纂に大きく関わった相澤伴主の墓があるお寺です。境内には珍しい六観音像も設置されており、施主は相澤伴主の祖父とされています。相澤伴主は文化面で様々な功績を残しており、参加者は非常に興味を持って解説を聞いていました。

- 安保入道の墓



個人宅地内にあるため、見学はできませんでしたが、横溝八郎と同じく関戸合戦で討死した安保入道の墓があるとされています。

ここは、相澤伴主によって安保入道の墓と推定され、祠は伴主の子が建立したそうです。

平成 18 年 11 月撮影

(『関戸合戦』パルテノン多摩より)

- 熊野神社（霞ノ関南木戸柵跡）



熊野神社では地元のお祭りの時に使われる神輿を見せていただき、地元の方に説明もさせていただきました。

また、境内には関戸の由来とされる、霞ノ関南木戸柵跡があり、これは関所の柵跡であると推定されています。この柵跡は東京都指定史跡となっています。

3.5 質疑応答等

見学途中に参加者から出された質問や感想についてご紹介します。

【質疑応答】(当日の回答に一部補足しています。)

<大栗川について>

Q：(整備済みの護岸を見て) この整備は何年くらいにされたのですか？

A：平成 23 年頃に完成しました。

Q：護岸整備された大栗川では降水量は何 mm/h まで対応しているのですか？

A：降水量 50mm/h まで対応しています。

Q：大栗川の流量は減っているのでしょうか？

A：大栗川はあまり水が減りません。水枯れ等は起こしたことはありません。

Q：下水の分も想定して整備が行われているのですか？

A：50mm/h まで対応しているというのは下水の分も想定しての数字です。

<横溝八郎の塚>

Q：「大小の塚のうちのひとつが横溝八郎の墓である」とあるが、どれが大でどれが小なのでしょう？

A：現在は小さい塚のほうは壊れてなくなってしまいましたが、元は2つありました。

<相澤伴主について>

Q：相澤伴主の墓の整備はされているのですか？

A：今も手入れはされています。

Q：相澤さんという血筋は絶えてしまったのでしょうか？

A：絶えてはいないと思います。今も相澤という苗字はこのあたりに多くいらっしゃいます。

Q：相澤さんは何で生計を立てていたのでしょうか？(収入源は？)

A：相澤さんは芸術家なので、パトロンのような方がいらっしゃったのではないかと考えられます。

【感想】

<現地見学中のコメントより一部抜粋>

コメント：(出発前) 現地を良く知っていると思っていたけど、しおりを見ると全然知らなかったことがたくさん載っていて驚きました。すごく充実してますね。

コメント：(大栗川は「おおくりがわ」「おおぐりがわ」という2つの呼び方があるという話を聞いて) うちのばあさんが日野から嫁に来た時に「おおくりがわ」って言っていました。

<アンケート結果より一部抜粋>

貴重なご意見をありがとうございます。今後の運営や川づくりの参考にさせていただきます。

- ・川の名称は歴史的な名前も川にある掲示板に補記して欲しいです。地元では大栗川は「おおくりがわ」、浅川は「あざがわ」と読んでいます。
- ・午前の部終了後、スタッフの方々と熊野橋から上之根橋まで乞田川沿いに歩いて参りました。護岸の話を道すがら伺い参考となりました。河川の活性化をどうすればいいのか考えどころです。
- ・いい川づくりの周知のきっかけとして、川づくりには直接関わりのないテーマをとりあげるにより、より多くの人にメッセージを送ることができると思いました。
- ・多摩川だけでなく、多摩川水系の中小河川についても取り上げて欲しいです。

3.6 解散

竹本副所長（京浜河川事務所）



閉会の挨拶の様子

- 最後の見学スポットである熊野神社で各班解散となりました。
- 最後に竹本副所長（京浜河川事務所）より、多摩川流域懇談会が開催している「多摩川流域歴史セミナー」の意義が説明され、皆さんに多摩川をもっと知ってもらい、いい川づくりに一緒に取り組んでいきたいという挨拶がありました。

以上